



心理学研究における 電子メールの使用

東京都立大学大学院 人文科学研究科
心理学専攻 博士課程
東海林麗香(しょうじれいか)

本日の発表内容

- 自己紹介
- これまで行ってきた電子メールを用いた調査
(以下EMS: e-mail survey)について
- EMSの長短: 自身の経験から
- 今後の展望

自己紹介

専門：発達心理学（成人期の対人葛藤への対処）

- 折り合いをつけるということ
- 問題解決を先延ばしにしたり回避すること
の効果的な使用場面、そこに至るプロセス

主な研究内容

- **新婚夫婦の葛藤対処⇒EMSを使用**
- 親子・家族関係についての縦断研究プロジェクト（1997年～かんがるう・こあらプロジェクト）
- 小中学校の教師のバーンアウトについて



EMS 実施の経緯

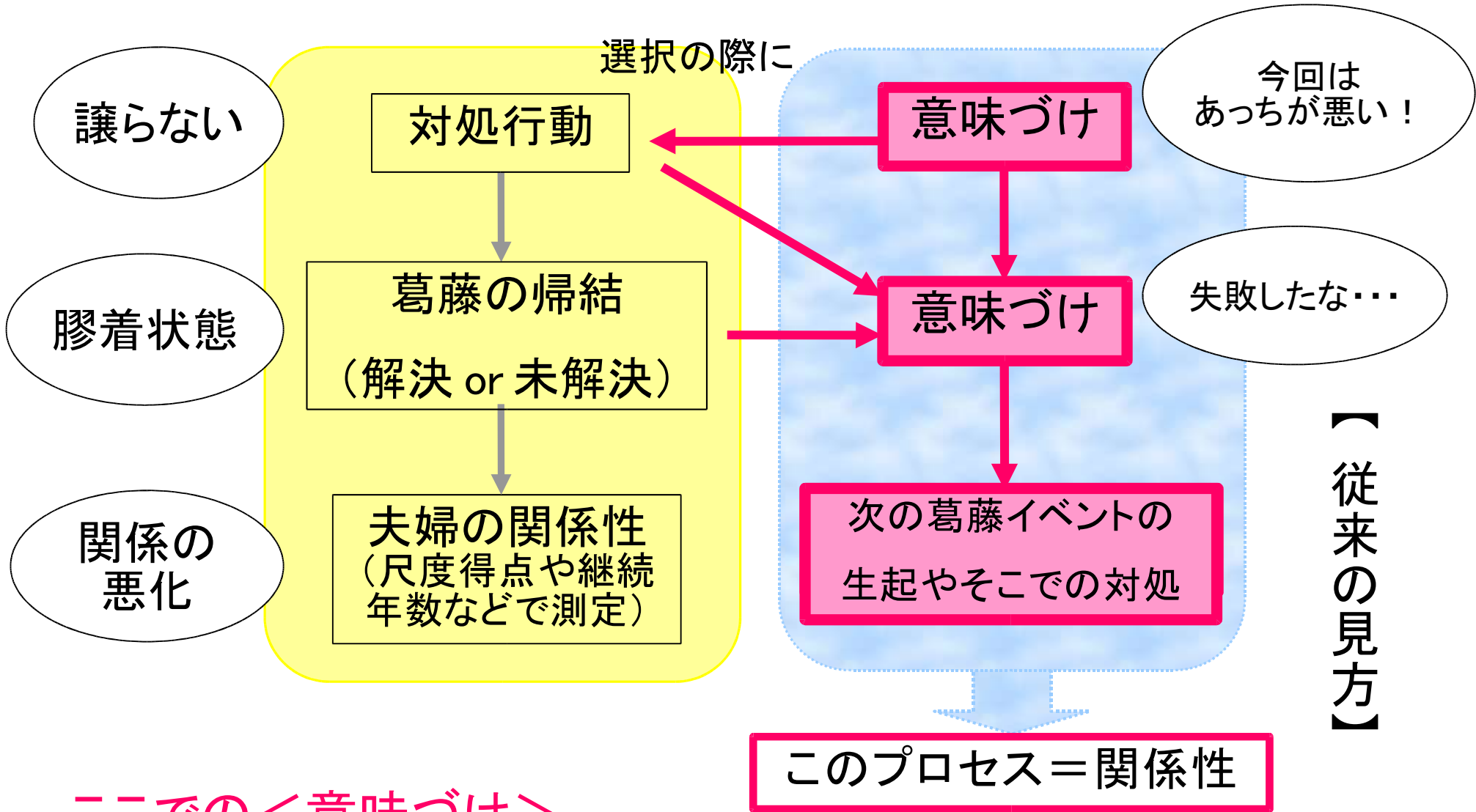
これまで用いたことのある方法

親子を対象とした縦断研究

- 家庭を訪問してのビデオ観察 (対象: 親子)
- 家庭を訪問してのインタビュー (対象: 親)
- 留め置きでの質問紙調査 (対象: 親)

新婚夫婦を対象とした研究

- 実験室でのビデオ観察 (対象: 夫婦ペア)
- 郵送による質問紙調査 (対象: 夫婦各々)
- 電話／対面でのインタビュー (対象: 新婚女性)



ここでの〈意味づけ〉

夫婦間葛藤における、その原因や経過、自他の対処の解釈

方法上の悩み

① 具体的な葛藤経験における意味づけ、その連鎖を捉えたい

⇒ 調査間に再構成が進んでしまう

② インタビューでは女性対象者が主

⇒ 夫婦双方にアプローチしたい

③ 同居の問題や、結婚後の女性のアイデンティティなど、考えうる結婚後の問題で出てこないものが多い

⇒ サンプルングの問題か？

EMS の利点 (大隈, 2002a)

- 速報性
- 調査経費の低減化
- 広く協力者を集めることができる
- 返送しやすい
- 自由記述の回答内容が豊富 など

問題としてはデジタル・デバイド、匿名性など

心理学における EMS について

- 見当たらない
- 「電子メール使用について」の調査は多い
- インターネット調査も少ない
- インターネット調査では、量的研究が多い。
⇒ 方法論に関しても、行動計量学の立場から、
量的研究に関する報告が多い。自由記述などの
質的データでも、分析は量的に行われること
が多い（データマイニングなど）。
- ⇒ 発表者の研究は質的データを質的に分析



調査の概要

共同生活開始を基点に

【電子メール調査】

【電話インタビュー調査】

調査期間中に生じた葛藤
と対処、意味づけについて

【質問紙調査】 謝礼の郵送

■ 関係信念を尋ねる SCT（文章
完成法）

■ 夫婦間コミュニケーション態度

調査時期	メール	質問紙	電話
2ヶ月前	○	○	-
1.5ヶ月前	○	-	-
1ヶ月前	○	-	-
1ヵ月後	○	○	○
2ヵ月後	○	-	-
2.5ヵ月後	○	-	-
3ヵ月後	○	-	-
3.5ヵ月後	○	-	-
4ヵ月後	○	○	○
7ヵ月後	-	○	○

匿名ではない / 反復的な調査

協力者について

入籍を機に共同生活を始める男女 30 組

男性 25 人

29.5 歳 (SD=3.56)

女性 30 人

28.0 歳 (SD=3.29)

平均初婚年齢(人口動態 2004)

男性 29.1 歳, 女性 27.4 歳

募集方法

- 調査用HPを作成
- 結婚関連企業や個人HPへのリンクを依頼


加えて、大学などの授業内で案内を配布

調査用 HP の構成

- トップページ
- 調査について
- 調査スケジュール
- 調査への参加方法
- 謝礼について
- 調査の結果は

EMSの方法

- 調査開始前に、回答方法や項目例を郵送
質問・回答形式：自由記述と選択式
- 調査日の3日前に調査メールを送信
- 返信され次第、回答をチェックし、漏れや不明箇所があった場合は尋ねる。
- 回答のない場合は5日後までに催促を行う



EMS の利点

- これまでの経験から -

EMS の利点（大隈，2002a）

- 速報性
- 調査経費の低減化
- 広く協力者を集めることができる
- 返送しやすい
- 自由記述の回答内容が豊富 など

幅広い対象者から詳細なデータを得られる

- 自由記述が取りやすい。
- 異性も対象にしやすい。
- プライベートな話題が出やすい。ただし個人差あり。

しかしながら・・・

自由記述設問の設計方法やデータ解析法についての実証的な研究が少ないこと、従来の研究方法との比較があまり行われていないことから、**必ずしもインターネット調査が有利である証拠はない**（大隈、2002）。

相手の都合に合わせられる

⇒協力者にとっての簡便性

「会社の休み時間にやっています」

「だんなはメール書いてると思ってる」

「途中までやって保存して・・・」


やり取りができるので、質問などが受けやすい

回答者の中には、結果報告に対してコメントを伝えてくる例もあり、こうして意見交換の輪が広がることもある。調査者と回答者のコミュニケーションができるという点は、従来の調査ではありえなかった新しい方法である（荻野，2004）。

入力の手間を軽減できる

調査のブラッシュアップや分析のスピードアップに役立つ

- 対象者がやり取りを期待した返信をすることがあるため、返信されたらすぐにデータをチェックする習慣がつく。
- 調査終了前にデータのチェックや軌道修正ができる。



EMS の欠点

- これまでの経験から -

インターネット調査の欠点(大隈, 2006)

- 目標母集団があいまい
- 登録者集団が不透明
- 回答の代表性が疑わしい
- 一般に回答率が低い
- 虚偽・代理など不正回答の混入の可能性
- 回答の制御・強制・誘導が起こりうること

やり取りができることによる大変さ

⇒ 自動処理の難しさにもつながる

■プライベートなやり取りになる可能性があること

⇒ 協力者との関係に差がつく; 書かせる責任

■漏れややり取りの可能性があるので、**短期間で全てをチェックしなければいけなかったこと**

⇒ 事前回避も可能

質問は別アドレスにする

返信はリマインダーのみ など

返信・送信時の問題

- 入力中のミス
- トラフィックエラー
- 自分の回答を見返した可能性

セキュリティの問題

引越しによるインターネット環境の変化

EMS の限界： 双方向性 / 自動処理の難しさ

- 実はけっこう手間やエラーあり、大量データ収集に向いているとは一概にはいえない。
- 大量データの収集に用いる場合は工夫が必要
やりとりをしない・制限する
未回答や漏れのチェック
- それにより協力者のフラストレーションがたまる可能性があり、検討が必要



今後の展望

EMS の応用的な利用方法

大隈 (2002)

- Web 調査のプリテスト
- web 調査の導入 (挨拶や調査説明など)
- 調査票へアクセスするための URL
- 電子メールで電子化した調査票を添付、記入後に返送してもらう
- 画像の張り込み、リンクの設定 (HTML メール)

⇒ web 調査と EMS のハイブリッド型

他の方法でもなく web でもなく EMS

速報性・簡便性・やり取りができる

- 日常生活に入り込んだ
- 具体的、詳細なデータを
- 狙った時点で; 短期間で

収集したいときに効果的

混合型調査方式 (Grover ら, 2004) で
より効果的な使用ができるのでは?

ありがとうございました



【引用・参考文献】

- 大隈昇 2002a インターネット調査, 社会調査ハンドブック, 朝倉書店, 200-240
- 大隅昇 2002b インターネット調査の適用可能性と限界ーデータ科学の視点からの考察ー, 行動計量学, 29(1), 20-44
- 大隈昇 2004 インターネット調査の何が問題かー現状の問題と解決すべきことー, 新情報, 91, 1-20
- 大隈昇 2005 インターネット調査の何が問題か(つづき)ー現状の問題と解決すべきことー, 新情報, 92, 1-20
- 大隈昇 2006 インターネット調査の抱える課題と今後の展開 ESTRELA, 143, 2-11
- 萩野綱男 2004 電子メールによる質問調査法ー調査の具体的な方法とその特徴ー, 日本語学, 23(8), 168-179
- 東海林麗香 2006 夫婦間葛藤への対処における譲歩の機能:新婚女性によって語られた意味づけ過程に焦点を当てて 発達心理学研究, 17, 1, 1-14
- 猫田泰敏 2005 インターネット調査の実際と課題, 看護研究, 38(2), 67-77
- 本多則恵 2005 社会調査へのインターネット調査の導入をめぐる論点ー比較実験調査の結果からー, 労働統計調査月報, 57(2), 12-20
- 前田忠彦・大隈昇 2006 自記式調査における実査方式間の比較研究, ESTRELA, 143, 12-19